

《史跡見学会感想》

市内史跡見学「竹瓦界隈歴史散歩」に参加して

後藤 徳義

この度は別府史談会の市内史跡見学会に参加させて頂き誠に有り難うございました。

先ずJR別府駅で史談会々長さんの挨拶や役員の方の説明があった後、別府八湯語り部の会ガイド部長古川さんほかの案内で市内二〇カ所余りにわたる見学コースを歩きました。わたしは別府市内に五〇年以上住んでいます、今まで全く知らなかった路地裏や建物、あるいは史跡を自分の目で確かめ、改めて知らなかったことどもの多さに驚きました。

「古い建物だなあ」くらいに思っていた駅前高等温泉が約一〇〇年くらい前にできたことにびっくり、またその路地裏にある国際民宿「こかげ」に入った途端、子供の頃に見慣れたラジオや柱時計などが目に入り思わずアッと声をあげましたが、まわりに所せましと並べられた品々を見て一気に何十年も前に帰った気がしました。これを集めた方のご努力のほどがしのばれました。また外国人の宿泊客の方もおられ、国

際色豊かな町を改めて実感しました。

次に若い頃塀の外を行事で通っていた西法寺に、松尾芭蕉の句碑があったこと、また昔「かごやす」という店先に標柱があり、子供のころから何だろうと思っていたものが、伊能忠敬の別府測量の証しと聞き、改めて先人のご労苦に思いを馳せました。

また浜脇に住んでいた頃、家族とよく入浴した紙屋温泉や竹瓦温泉なども懐かしく、これを維持していく方々のご苦労のほどもしのばれました。中浜筋にあるアイスクャンデー屋の栄屋さんは、昔なつかしい思い出の一つです。いつまでも続けてほしいと思いました。次に義父が毎日お参りしていた地藏尊に詣で在りし日をしのんでいたら、ここは海岸で砂浜だったと聞きまた驚きました。

家に帰って見学の手引きの冊子を読みながら、別府に居られ、また来られた歌人、詩人、画家、作家などの方々のロマンや足跡なども知り、素晴らしい方々が別府とご縁をもったのだと改めて誇りに思いました。

栄枯盛衰、常に移り変わる世ではありますが、湯けむりけぶる中に路地裏がしっかりと根付き、別府の歩みの足跡を受け継いでいることを知り、大変に勉強させられました。